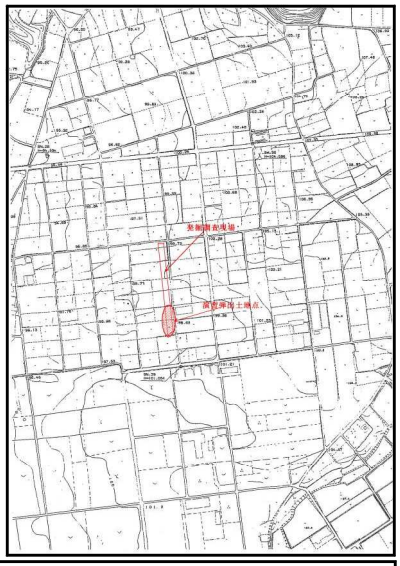
陸軍菊池飛行場出土演習弾等と爆撃場

熊本県：くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク　髙谷和生

１　菊池飛行場の概要

菊池飛行場は熊本県菊池市花房富の原に所在する。花房・隈府飛行場の別称あり。昭和15年４月開隊し、同年８月大刀洗陸軍航空支廠菊池分廠を設置。同年10月には大刀洗陸軍飛行学校菊池分教所を設置し、後の昭和18年12月には同菊池教育隊に改称。昭和16年１月、第三航空教育隊・西部第九九部隊が移駐し、航空兵教育を実施し、防衛警備も担当。昭和19年４月には陸軍航空通信学校菊池教育隊が開隊し、さらに菊池陸軍病院第一飛行集団に所属し、菊池気象観測所を配置。本飛行場は熊本県最大の陸軍航空基地で、多くの実戦部隊が配置される。昭和16年９月に第一〇六教育飛行連隊（中部第115部隊）～17年４月、昭和17年５月に第一〇三教育飛行連隊（西部第一二七部隊）～18年９月、昭和19年３月には第三教育飛行隊と改称、昭和17年12月に西部軍直協飛行隊（西部第一二七部隊）～18年９月が中心となった。昭和20年５月13・14日に空襲を受け、多くの建物は焼失したものの、昭和20年７月、第三十戦闘飛行集団の配当飛行場となり、特攻中継基地に変貌する。敗戦時は、第二二九飛行場大隊（靖第一九三八八・昭和20年４月編成）、第五五飛行場中隊（靖第一八四六四・昭和19年４月編成）が配備。



①菊池飛行場空撮写真　　※〇印が調査箇所
②調査地区の全容と演習弾発見箇所　菊池市教育委員会提供

２　出土した演習弾・代用爆弾

（１）医者どん坂遺跡、調査区概要

菊池市教育委員会では平成23（2011）年より菊池市出田地区の県営圃場整備事業に伴い事前の発掘調査を実施し、平成27年度「医者どん坂遺跡」を調査した。調査区は４箇所で古代の集落跡が確認されるとともに、本遺跡が菊池飛行場東端に位置することから、機銃弾や爆弾片が従前より多数収集されていた。特に演習弾等が発見された調査Ｃ－５区では、完形資料二点の他、各種爆弾破砕片20点も確認できた。平成28（2016）年１月４日現地で資料を実見した陸上自衛隊目達原駐屯地第一〇四不発弾処理隊により、本資料は爆発の危険性はなく「通常爆弾ではなく演習弾である」と判明した。ただ、処理隊が所有されている旧軍資料は略図しかなく、しかも提供がなされなかったことから、歴史資料として本演習弾型式や概要を考証した。

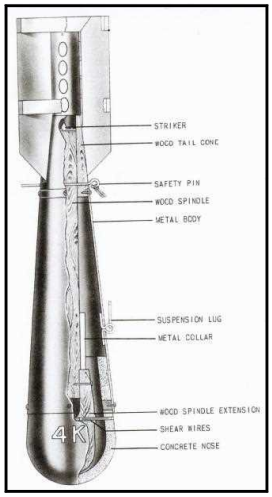
（２）陸軍九五式四㌔演習弾

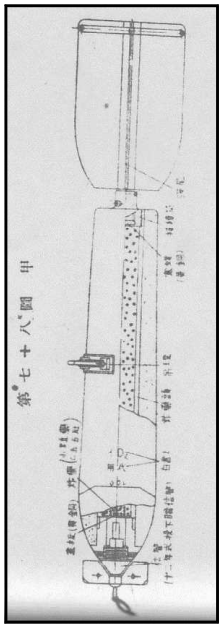
日本陸軍が使用した演習弾概要については、兵頭二十八著書『日本海軍の爆弾』「付録　陸軍の航空爆弾手控え」に概要が記されている。それによると、九五式四瓩演習爆弾については「発煙剤〇．一九〇ｋｇ。昭和十一年三月十三日制式。昭和十一年度の単価六円七十五銭」と記載され、九五式四瓩演習爆弾（除瓶）については「八八式と同形だが、酸性平炉溶滓二酸化マグネシウムを加え塩化マグネシウム溶液にて混和凝結せしめた後、外部を亜鉛鍍鉄板にて覆いたるものにして塩化第二錫を収容」とされる。一方、八八式四瓩演習爆弾の説明項に「弾体は鋳鉄、内部ガラス壜中に発煙剤の塩化第二錫を〇．一九〇ｋｇ収容」と記載。「発煙剤内包の瓶」の有無での両型式の相違とされる。また、米軍「Ａ　ＢＵＲＥＡＵ　ＯＦ　ＯＲＤＮＡＮＣＥ　ＰＵＢＵＬＩＣＡＴＩＯＮ」（著者和訳：米海軍兵器局）『ＪＡＰＡＮ　ＥＳＥ　ＥＸＰＬＯＳＩＶＥ　ＯＲＤＮＡＮＣＥ』（著者和訳：日本の火工兵器・1946年６月14日刊行）には、九六式４瓩演習爆弾「Ｔｙｐｅ９５　４ｋｇ．Ｐｒａｃｔｉｃｅ　Ｂｏｍｂ」と紹介がなされている。弾頭部は「Ｃｏｎｃｒｅｔｅ　Ｎｏｓｅ」と記され、先端にはコンクリートが充填され、頭部外板には「４ｋ」と標記。弾尾発煙部の仕様が示されていないが「Ａｎ　Ａｍｐｏｕｌｅ　Ｃｏｎｔａｉｎｉｎｇ　Ｔｈｅ　Ｓｍｏｋｅ　Ｃｏｍｐｏｕｎｄ」と発煙剤をガラス容器に内包し、弾尾に収容する事も英文文中に示してあった。また、その後の調査で、弾頭部の先端に内包する木質部には、くり抜いた円形形状の先端部が、弾体中央を上下に貫く木芯に釘で固定し組み合わされ、瓶の下部にある撃針に繋がることが判明した。

（３）陸軍九四式十㌔代用爆弾

同地区で出土した、本爆弾片はいずれも弾尾部は完形で、ねじ込み部を有し特徴ある尾翅部と

爆発で破損したと想定される弾体部がセットとなる。尾翅部横幅長14ｃｍ、翼部長26ｃｍ、全長約80ｃｍで「九四式十瓩代用爆弾」と想定できた。近接出土信管は、実物資料との照合から「十二年式投下瞬発信管」であると特定。二点の信管頭部には「昭和１６年６×（砲身が交差しバッテン形状とした大阪砲兵工廠マーク）阪」「昭和１６年１０×（大阪砲兵工廠マーク）阪」の刻字（刻字はいづれも右から左への書字）が確認できた。「弾体外部は溶滓マグネシウム系セメントより成り、炸薬は小粒薬〇・五五ｋｇで弾頭に十二年式投下瞬発信管を螺着。昭和九年六月三〇日制式」との概要も判明した。本調査区の出土地点で、約10個体分の弾体破損部と弾尾が一緒に確認された。弾底部に内包した炸薬（550㌘）が、着地時の衝撃により信管が作動し、爆破したものであった。さらに信管部はそのまま地中に埋まり込み、弾体中央部セメント素材と供に破砕され、別部材でねじ込み組み合わされた弾部のみがほぼ完形で遺存したものと現地状況から想定できた。まさに代用爆弾利用は、演習弾の発煙機能と同様に、着弾破損時のセメント粉吹き上げによる視認であることがこの状況で理解できた。

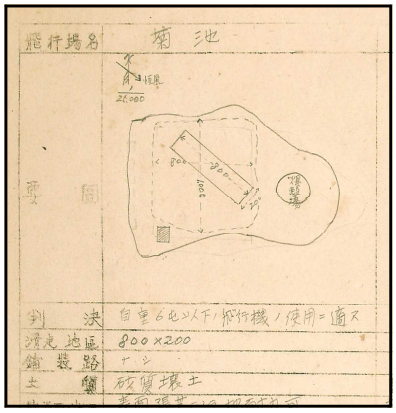




③医者どん坂遺跡で発見された九五式四瓩演習弾の全体像　④米軍資料「九五式四　㌔演習弾」堤昭夫氏提供　⑤第Ｃ－５調査区から出土した「九四式十瓩代用爆弾」頭部（信管部）⑥同　四翅尾翅部　⑦防衛研究所蔵「九四式十瓩代用爆弾」構造図　山本達也氏提供

３　確認された爆撃場、類例資料

菊池飛行場内の発掘調査において、文献記載の「爆撃場」が、さらに米軍空撮資料で確認できた。ただ「中核部」は調査区外であり遺構確認はできていない。当時証言でも昭和18年～19年当初頃、小型爆撃機（九九式襲撃機か）による投下訓練が目撃されている。それによると、「小型の目標物があった」「中央には貝殻が山積されていた」「本演習弾と同じ大きさで、丸太にブリキ翼が着いた爆弾様物」をその近くで採集した等の証言がある。発見された「九五式４瓩演習（爆）弾・九四式十瓩代用爆弾」の実物は、国内には遺存してはおらず、その構造を知る貴重な軍事資料である。発掘資料としては、国内初である。また、射爆場と演習弾がセットで発見された例は、国内では宇佐海軍航空隊事例「宮熊海岸に設置された“艦爆標的”施設」と「三十瓩演習爆弾一型のコンクリート充填弾頭部」に次ぐ全国２例目資料である。



⑧昭和20年９月７日作成「飛行場記録提出資料」陸軍省作成　⑨宇佐市宮熊海岸の「艦爆標的」。中央基壇が中央標的、周辺部は６本の円柱。径100ｍの六角形に配列。宇佐市教育委員会提供　⑩ 戦後米海兵隊接収陸軍50kg爆弾

□髙谷和生「陸軍菊池飛行場より発見された演習弾・代用爆弾」『歴史玉名　第80号』玉名歴史研究会　2017年
□菊池市教育委員会『菊池市文化財調査報告11　医者どん坂遺跡』2022　※全国遺跡報告総覧よりダウンロード可